

1. 担い手等に対する技術の改善および経営の発展に向けた支援

地域に適合した多角化経営の実践支援

対象者 (有)Rファーム

【普及活動のねらい・対象】

対象は県下でも有数の水稲大規模経営体ですが、米価の低迷等への対応として、経営規模の拡大を図るとともに、平成15年頃から園芸品目の導入や自社直売所の開設等の多角化を図り、経営の安定化に努めておられます。しかし、多角化の進展に伴い、部門別経営管理や労働配分が重要となってきています。

そこで、労働記帳や部門経理から部門別の経営収支を明らかにし、多角化経営のモデルを育成する目的で活動に取り組みました。

【普及活動の経過】

1. 労働内容・時間の記帳と経営収支把握の支援

作業日報の記帳を誘導して、作業内容別の作業時間を把握するとともに、聞き取りや帳票の確認・整理により、作物別の販売金額、直接経費を把握しました。

2. タマネギの機械化による省力作業体系の実証

経営の主要品目であるタマネギの収穫作業について、収穫機やピッカー利用による省力効果について実証を行いました。

【普及活動の成果】

経営多角化の急速な進展に対しては、雇用の増加で対応されていますが、作物別の労働時間や収益については感覚的につかまれていたものの、数値での把握はされておらず、今回の活動により明確な数値で把握することが出来ました。

作物別の販売金額や販売先から、主要品目、労力分散品目、自社直売所や加工原料品目向けにグレード分けし、労働力が集中しないような品目構成となるように検討しました。

タマネギの収穫作業の機械化体系実証では、これまでの作業体系で10aあたり40時間の労働時間が必要でしたが、収穫機+ピッカーの利用で労働時間は8時間程度に削減され、軽労化にも大きな効果が認められました。他作物との労力競合に配慮した適正面積の設定が残された課題となっています。

慣行作業体系 (/10a)		機械作業体系 (/10a)		経営ハンドブック (/10a)	
作業名	手収穫	作業名	機械収穫	作業名	経営ハンドブック
根切板作業	33分	収穫機	1時間40分	収穫	32時間
葉切り	13時間	ピッカー	3時間2分	出荷調整	8時間
コンテナ積み	23時間7分	コンテナ回収	3時間46分		
コンテナ回収	3時間46分				
合計	40時間26分	合計	8時間28分	合計	40時間

* 時間実測による調査

今後、時期別の労働配分や収益を考慮した作付計画の検討と実践の支援を行い、水稲大規模経営体における多角化経営モデルとなるよう支援する予定です。(西野)



タマネギの機械化収穫作業体系の実証風景